

○ローズバス路線拡充試験運行バス 事業評価資料

ローズバス路線拡充試験運行バスの事業評価を行うため、「岸和田市公共交通検討委員会」において、試験運行開始前に、評価を行うための指標とその評価基準値を定めていた。

その評価基準値と、3月の試験運行開始から9月18日までの利用実績データ、および、試験運行実施期間中に実施した利用者アンケート調査、および、沿線住民アンケートの結果を照らし、各評価項目別に基準値の達成可否を示したものが下表となる。

評価指標	評価基準値	試験運行実績値	達成可否
利用実績 (利用人数)	16人/便	7.3人/便 (7,252人/996便) ※9月18日時点	×
収支率	20%	7.7% ※8月末時点	×
認知度	80%	89.6% (沿線住民アンケートより)	○
利用者満足度	60%	利用者アンケート： 74.9% 沿線住民アンケート： 64.8%	○
協働の取組度合い	試験運行期間中 3回	黄金塚第二期： 5回実施 東ヶ丘町： 5回実施 摩湯町： 4回実施 +定期的清掃	△
外出機会の増大 (65歳以上)	60%	利用者アンケート： 58.6% 沿線住民アンケート： 39.1%	×

また、上記評価指標とは別に、基準値の設定は難しいものの、バスが運行されたことによる効果が測れることができると思われる指標についても設定を行っていた。

各項目の調査結果値は以下となった。

評価指標	試験運行実績値
利用の顕在化率	46.4% (沿線住民アンケートより 事後利用割合 19.5%/事前利用意向 42.0%)
自動車からの転換率	利用者アンケート： 18.0% 沿線住民アンケート： 30.2%
岸和田市市街地への 目的地変更率	利用者アンケート： 40.0% 沿線住民アンケート： 34.6%

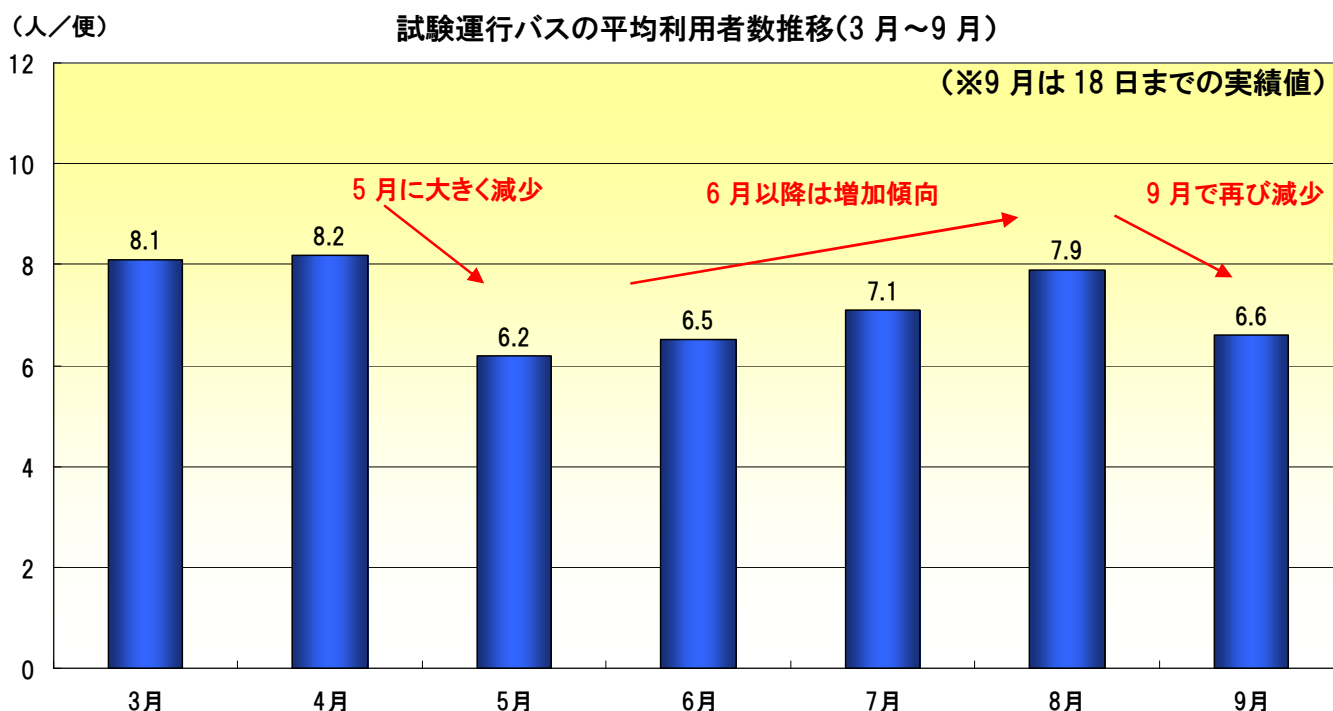
・利用実績（利用人数）

試験運行バスの利用実績人数（3月1日～9月18日）は7,252人であった。

この間のバス運行便数は996便であり、これより1便あたりの利用人数は7.3人/便となる。

この値は、評価基準値【16人/便】の半数にも満たず、利用人数はかなり少ない結果となっている。

月別の利用者数（1便あたりの乗客数）の推移は下図のとおりとなっており、5月に利用が落ち込んだものの、6月以降は利用者が増加傾向となり、8月は運行開始直後の水準まで戻ってきただが、9月に入り再び減少している。



これは、7月後半から8月にかけては夏休み時期ということで、子供だけや親子連れでの乗車や、久米田病院の研修生の乗車があった（南海ウイングバスへの聞き取り結果）ため、夏休みによる一時的な需要拡大の結果が現れていると考えられ、9月に入ってからの利用者数が6月の状況とほぼ同水準に戻っていることから、夏休み特需以外の利用者のベースアップについては、ほとんど無かったものと思われる。

・収支率

収支率については、試験運行バスの1日あたりの運行経費額（5万円/日）と、8月末日までの運賃収入実績値を用い、8月末日までの運行日数（152日）から期間中の運行経費を求め、収支率の算定を行った結果、約7.7%となった。

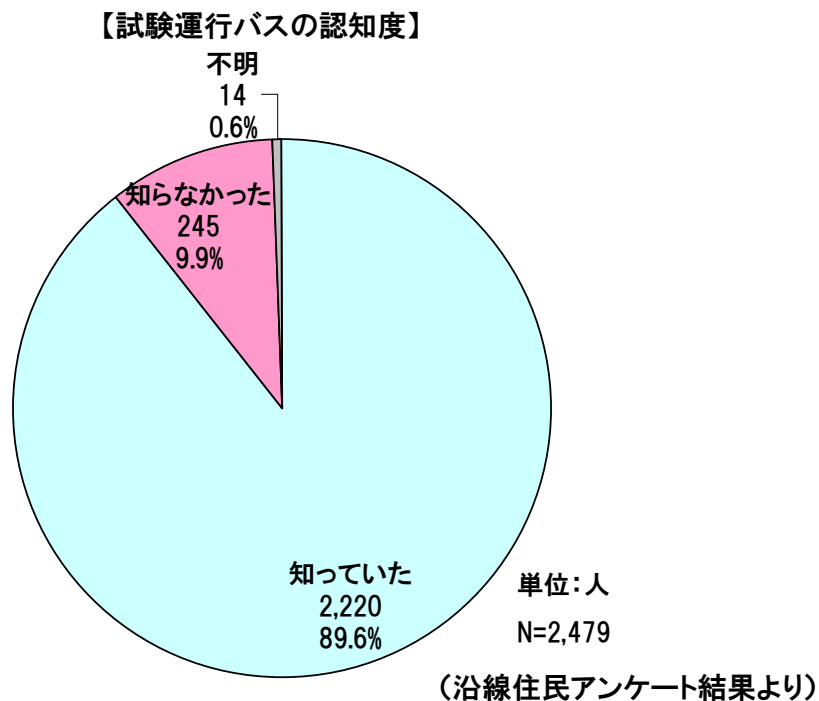
運行経費：152 × 50,000 = 7,600,000円
運賃収入：582,190円
収支率：582,190 ÷ 7,600,000 = 7.7%

(※8月末日まで)

・ 認知度

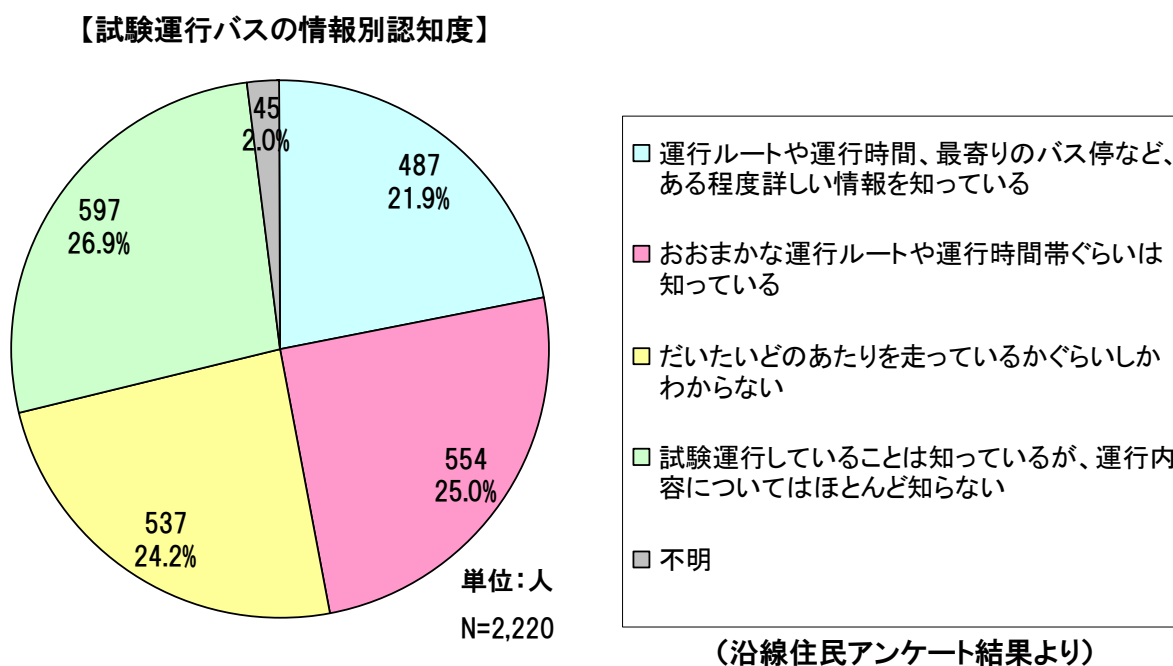
試験運行バスの認知度については、沿線住民アンケートにて調査を行った。

アンケートでは、「お住まいの地区を通るバスが試験運行されていることをご存知でしたか？」という設問に対し、89.6%の方が「知っていた」と回答された。



これは評価基準値の80%を上回る結果となり、地域の方に広く認知されていると言える。

ただし、「知っていた」と回答された方を対象に、試験運行バスの情報別の認知度合いを聞いた設問では、おおまかな運行ルート・運行時間帯がわかる方は約47%にとどまり、半数以上の方はあまり詳しい情報を知らないという結果となった。

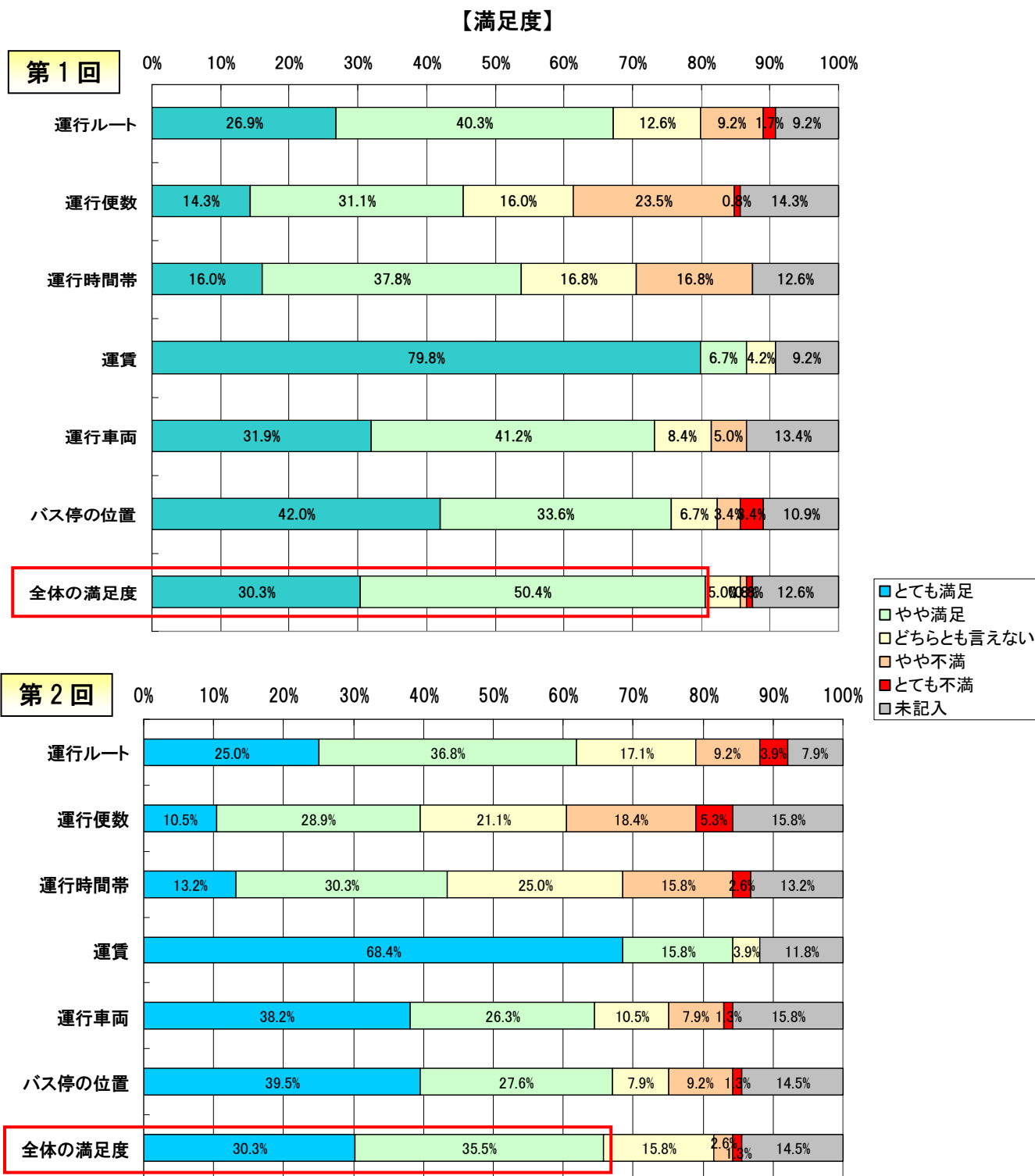


・利用者満足度

試験運行バスの利用者満足度については、バスの利用者に乗車中に回答いただく利用者アンケート調査と、沿線住民アンケートの両方で調査を行った。

利用者アンケート調査は5月下旬と7月下旬の計2回、各1週間ずつ実施している。

試験運行バス全体の満足度を聞いた設問に、「とても満足」「やや満足」と回答された方の割合は、5月の第1回調査では80.7%、7月の第2回調査では65.8%となっており、2回の調査のトータルでの満足度は74.9%であった。

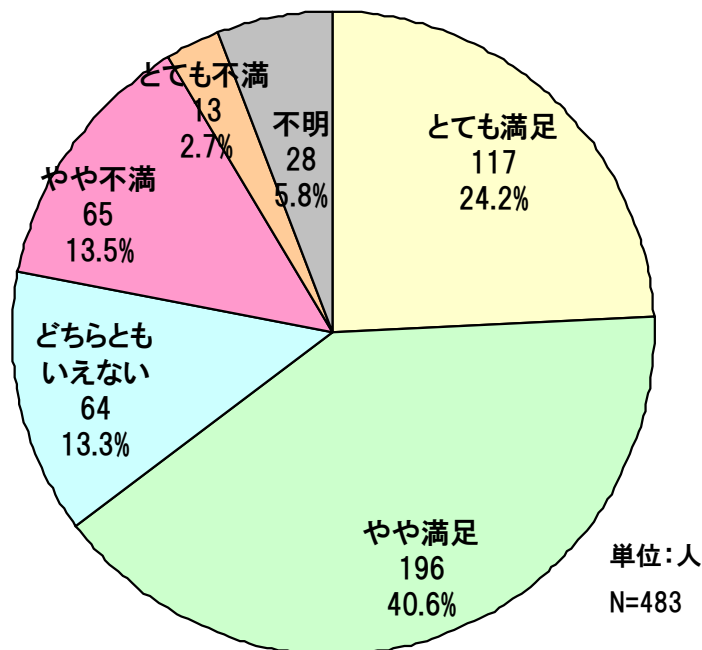


(利用者アンケート結果より)

沿線住民アンケート調査では、試験運行バスを「利用したことがある」と回答された方を対象として、全体の満足度のみを聞いている。

結果、「とても満足」「やや満足」と回答された方の割合は 64.8%であった。

【試験運行バス利用満足度】



(沿線住民アンケート結果より)

以上の通り、利用者アンケート調査、沿線住民アンケート調査の両方で、利用満足度は 60% を超えており、評価基準値を上回っている。

運行ルートや運行便数、運行時間帯など、部分的には不満を感じられる方も多いが、バス運行全体での満足度は高い結果となった。

・協働の取組度合い

沿線住民による協働の取組度合いについては、各地区で試験運行バスの「利用者拡大」および「利用環境向上」を目指し、実際に行った活動について報告いただく形で調査を行った。

報告は『黄金塚第二期』『東ヶ丘町』『摩湯町』の3地区からあり、それぞれの活動内容・取り組み回数は下表に示すとおりである。

地区名	協働の取組内容・回数
黄金塚第二期	<p>以下の機会において、地域の住民に対し、試験運行バスの PR や利用促進のための働きかけ、運行状況、情報の周知の徹底などの活動を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会総会時（3月18日） ・町内除草作業時（5月20日） ・回覧板にて情報周知・利用呼びかけ（6月1～5日） ・町内除草作業時（7月22日） ・納涼大会時（7月28日） <p style="text-align: right;">計5回</p>
東ヶ丘町	<ul style="list-style-type: none"> ・町内広報誌「伸交」にて3面をつかってPR（4月号） ・町内広報誌「伸交」にて利用の呼びかけ（7月号） ・自治会、老人会で運行実績報告・意見交換等を実施 ・沿線住民アンケートへの協力・バスの積極的な利用を回覧にて呼びかけ（7月） ・町内回覧にて、運行時刻表・各施設への所要時間などの詳しい情報を記載し、積極的な利用を呼びかけ（8月） <p style="text-align: right;">計5回</p>
摩湯町	<ul style="list-style-type: none"> ・町内定例役員会の議題の1つとして提起をかけ、その後、試験運行バス利用願い・チラシを町内で回覧（4月28日） ・7月度定例会にて試験運行バス利用実績報告、および、バス利用とアンケート調査への協力を呼びかけ（6月30日） ・町内一斉美化清掃運動時に町内バス停（4箇所）の清掃を実施（7月8日） ・9月度定例会にて試験運行バス利用実績報告、および、バス利用の促進を呼びかけ（8月29日） ・有志により毎朝バス停付近のゴミを収集、および、老人クラブ会員により、月に1～2回バス停の草取り・ゴミ収集 <p style="text-align: right;">計4回+定期的なバス停清掃</p>

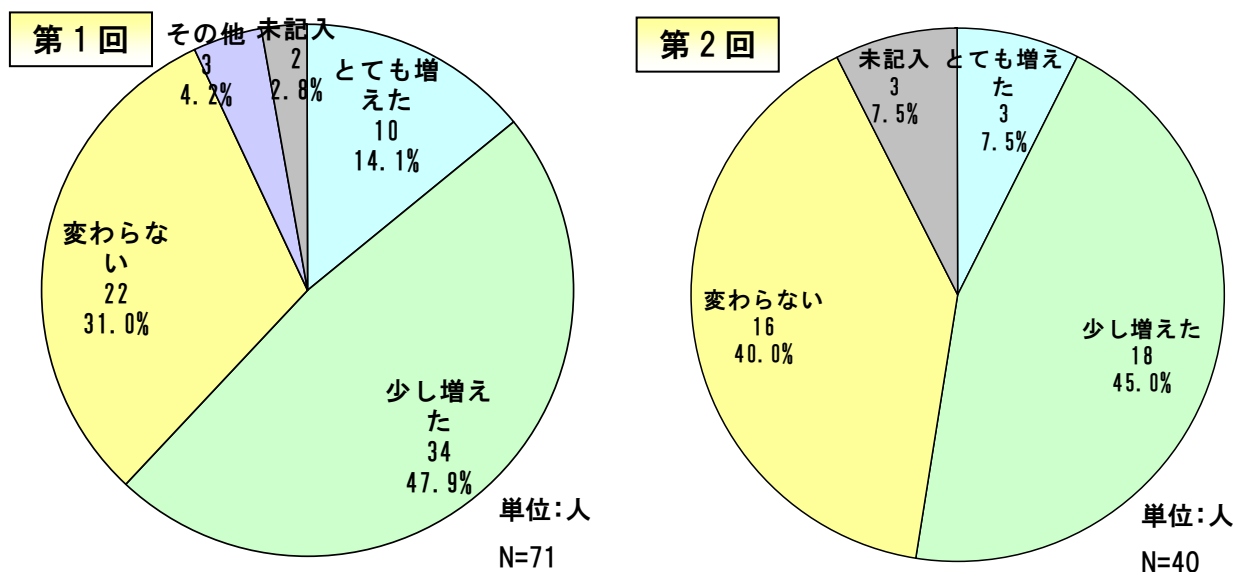
以上の通り、報告のあった3地区においては、評価基準となる3回以上の協働活動が実施されていた。しかしながら、その他の沿線地区からは報告は無く、沿線の全地域における活動としては基準を満たしていない状況である。

・外出機会の増大（65歳以上）

バス運行による65歳以上の方の外出機会の増大については、利用者アンケート調査と沿線住民アンケートの両方で調査を行った。

利用者アンケート調査において、試験バス運行により外出の機会が「とても増えた」「やや増えた」と回答された方の割合は、第1回調査では62.0%、第2回調査では52.5%となっており、2回の調査のトータルでは58.6%であった。

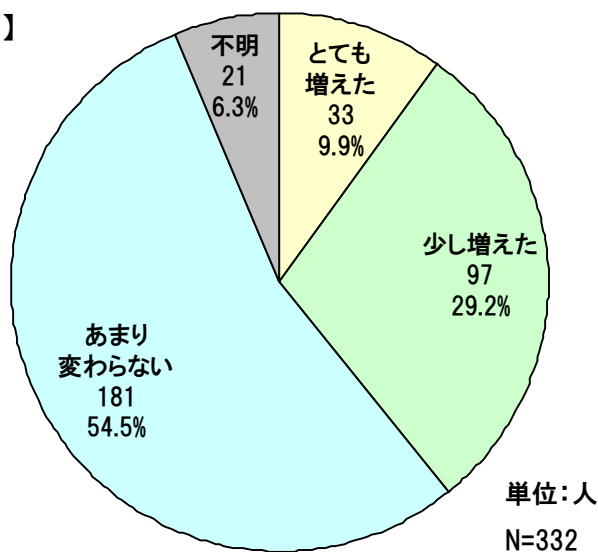
【外出機会(65歳以上)】



(利用者アンケート結果より)

一方、沿線住民アンケート調査で、試験運行バスを「利用したことがある」と回答された方を対象として、65歳以上の方の外出機会の変化について聞いたところ、「とても増えた」「やや増えた」と回答された方の割合は 39.1%にとどまり、利用者アンケートの結果とやや開きが見られた。

【外出機会(65歳以上)】



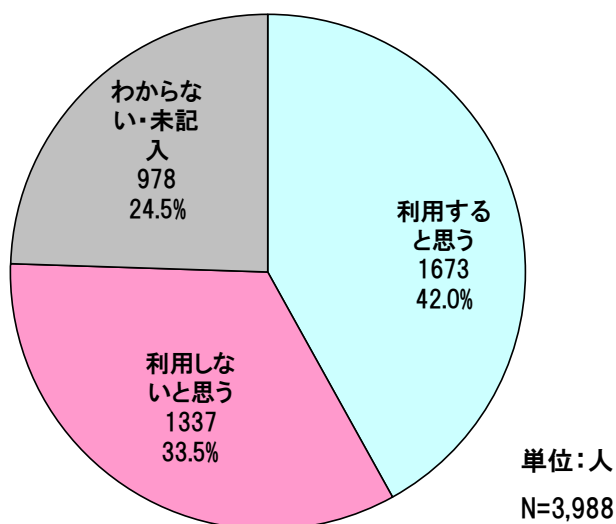
(沿線住民アンケート結果より)

・利用の顕在化率

沿線住民の試験運行バスに対する意識・熱意などを測るため、事前アンケート時の利用意向割合と、実際の利用割合を照らし、利用の顕在化率を算定した。

1月に実施した運行前の事前アンケート調査において、試験運行バスを「利用すると思う」と回答した方の割合は沿線地区全体で42.0%であった。

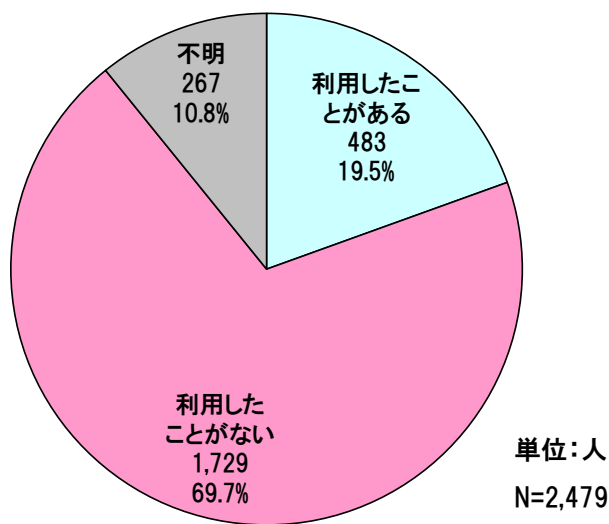
【試験運行バス利用意向】



(沿線住民事前アンケート結果より)

また、7月に実施した運行後の沿線住民アンケート調査において、試験運行バスを「利用したことがある」と回答した方の割合は沿線地区全体で19.5%となった。

【バス利用状況】



(沿線住民アンケート結果より)

以上より、利用の顕在化率は $19.5/42.0=46.4\%$ となる。

利用意向を示した方のうち、半数以上が利用していないこととなり、利用の顕在化率は低い。

・自動車からの転換率

これまで自家用車移動されていた方がバスに乗り換えることにより、排ガス削減等の環境保全効果があると考えられるため、自家用車からの転換率について調査を行った。

調査は利用者アンケート、沿線住民アンケートの両方で実施している。

利用者アンケート調査において、バス運行前の交通手段が「自分で運転する車」「人に乗せてもらう車」だった方の割合は、第1回調査では 18.8%、第2回調査では 16.6%となっており、2回の調査のトータルでの満足度は 18.0%であった。

【以前の交通手段】

第1回

以前の交通手段	回答数	割合
徒歩	23	14.4%
自転車	15	9.4%
バイク	3	1.9%
既存の路線バス	59	36.9%
施設等の送迎バス	3	1.9%
自分で運転する車	18	11.3%
人に乗せてもらう車	12	7.5%
タクシー	14	8.8%
鉄道	8	5.0%
未記入	5	3.1%
計	160	100.0%

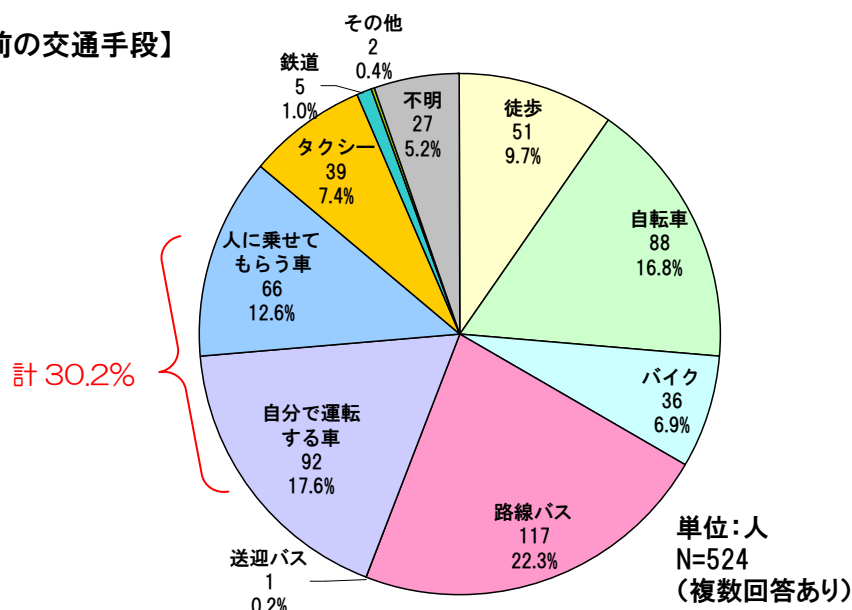
第2回

以前の交通手段	回答数	割合
徒歩	12	12.5%
自転車	23	24.0%
バイク	3	3.1%
既存の路線バス	28	29.2%
施設等の送迎バス	1	1.0%
自分で運転する車	8	8.3%
人に乗せてもらう車	8	8.3%
タクシー	7	7.3%
鉄道	1	1.0%
その他	1	1.0%
未記入	4	4.2%
計	96	100.0%

(利用者アンケート結果より)

一方、沿線住民アンケート調査における、自動車からの転換率は 30.2%となり、利用者アンケートの結果より 10%以上も高い結果となった。

【以前の交通手段】



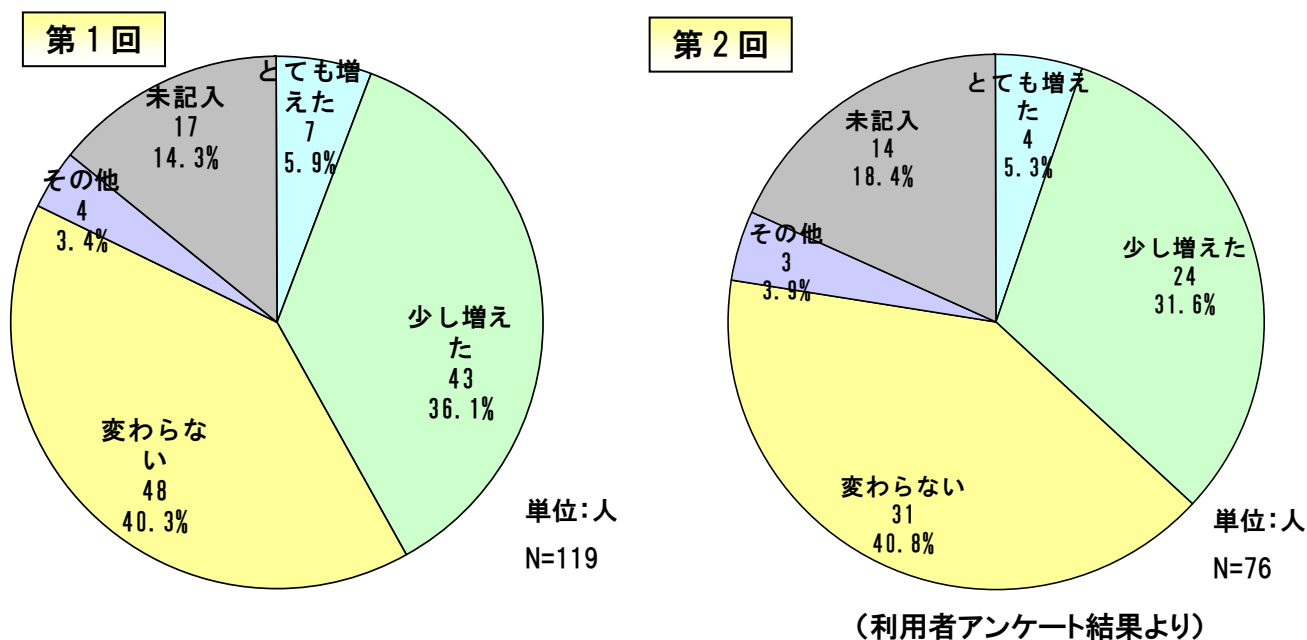
(沿線住民アンケート結果より)

・岸和田市市街地への目的地変更率

バス運行によって岸和田市市街地へ行くことが多くなった方の割合について、利用者アンケート調査と沿線住民アンケートの両方で調査を行った。

利用者アンケート調査において、岸和田市内の施設・店舗へ行くことが「とても増えた」「やや増えた」と回答された方の割合は、第1回調査では42.0%、第2回調査では36.9%となっており、2回の調査のトータルでは40.0%であった。

【岸和田市内の施設・店舗へ行く機会】



また、沿線住民アンケート調査で、試験運行バスを「利用したことがある」と回答された方を対象として、岸和田市内の施設・店舗へ行くことが「とても増えた」「やや増えた」と回答された方の割合は34.6%となり、利用者アンケート結果と概ね近い結果となっている。

【岸和田市内の施設・店舗へ行く機会】

